

【 第 1 号議案 】

平成 30 年度いわて未来政策・政経研究会事業報告

1 総会及び理事会

(1) 総会

日時： 平成 30 年 5 月 19 日（土）午後 2 時 30 分から 3 時 20 分まで

場所： プラザイン水沢（奥州市水沢佐倉河字後田 29）

正会員総数及び出席者数： 正会員 201 名中、出席 27 名、出席とみなされる表決委任者 80 名、計 107 名の出席（正会員の 2 分の 1 である 101 名を上回る数）となった。

審議事項

第 1 号議案 平成 29 年度いわて未来政策・政経研究会事業報告の承認

第 2 号議案 平成 29 年度いわて未来政策・政経研究会活動決算の承認

第 3 号議案 平成 30 年度いわて未来政策・政経研究会事業計画（案）

第 4 号議案 平成 30 年度いわて未来政策・政経研究会活動予算（案）

(2) 理事会

5 月 19 日に第 1 回、12 月 8 日に第 2 回、3 月 2 日に第 3 回を開催し、会の運営に関して審議した。

2 普及促進事業

随時、ホームページ、ピーアールポスター等で、会の趣旨、事業内容、政策・意見提言内容等を広くピーアールし、併せて会員加入を促進した。

また、講演会や意見交換会の行事のある日に同会場で記者発表会を行い、当会の新しい又は特徴的な取組を中心に積極的に報道機関に情報提供し、報道いただくよう努めた。

さらに、会報の発行時に、会報のテーマに沿った小論文を岩手日報紙に投稿し、それが論壇欄に掲載されることにより、全県的に会活動をアピールするよう図った。

3 会報発行业

4 月 27 日付け第 32 号、8 月 28 日付け第 33 号、11 月 13 日付け第 34 号、2 月 8 日付け第 35 号を発行し、会員に配布するとともに、県や市の関係行政機関、図書館、報道機関等に送付した。

なお、各号ごとにテーマを設定し、それにふさわしい論文・随想を掲載したほか、会員の多彩な声を紹介した。

4 講演会

(1) 5 月 19 日（土）の総会にあわせ、岩手大学名誉教授鈴木幸一氏を講師に講演会を開催した。演題は、「健康長寿社会と地方創生のための養蚕イノベ

ーション」であり、30人が聴講した。終了後、講師を交え交流会(懇親会)を開催した。

- (2) 12月8日(土)に奥州市内ホテルニュー江刺(本館)で、「減反廃止元年に展望するこれからの農業・農村」をテーマとする講演会・シンポジウムを開催した。JA岩手県五連副会長小澤隆一氏から「需要に応じた米づくり元年」と題し講演いただいた後、同氏、奥州農業改良普及センター所長佐々木力氏、若手農業者として(株)T Farm代表取締役高橋幸浩氏の3名をパネリストとするシンポジウムを行った。約60人が参加し、多くの質疑も行われた。終了後、講師・パネリストを交え交流会(懇親会)を開催した。

5 政治家、行政政策責任者等との意見交換会

平成31年3月2日(土)に水沢地区センターで、県南広域振興局長細川倫史氏との意見交換会を行った。細川局長から「岩手の未来を切り拓く県南広域振興圏の施策と展望」と題して講演いただいた後、意見交換を行った。26名が参加し、活発に質疑や意見を交わした。

6 行政機関、政党等への政策・意見提言

およそ半年をかけて会員から意見を募集し、12月の理事会で13項目の政策・意見提言を取りまとめた。その内容は、震災被災者対策、地方創生政策の拡充、地域包括ケアシステムの充実など多岐にわたった。この提言書を持参して12月26日に会長と役員が県南広域振興局長に、12月27日に副会長と役員が奥州市長に面会した。また、大臣、知事、市町村長等や国会議員、政党の本部・支部等に対して文書送付した。このうち県南広域振興局長からは県政に関するすべての項目について回答をいただいた。国会議員側からの回答もあった。

7 いわて平成松下村塾運営事業

次代の地域の発展を担う人材の発掘と育成を目的とする政経塾を開設したところ、第七期生(9~11月)として1名(一関市、男性、44歳)が入塾した。

首長・議員経験者が8回にわたり政策・政治・選挙等の講義を行った。

8 会員等親睦交流事業

10月17日(水)に9名が集い、北上市内の県農業研究センターを研修視察し、併せて花巻市内の高村光太郎記念館・高村山荘を見学・散策した。昼食時は、花巻市内のふくや食堂で、懇談・交流した。

上記のとおり報告し承認を求めます。

令和元年5月18日

特定非営利活動法人

いわて未来政策・政経研究会 会長 相原 正明